

報告日：平成21年3月17日

MML

検査成績報告書

MML

株式会社ミロクメディカルラボラトリー

代表取締役社長 柳沢 英三

〒384-2201 長野県佐久市印内 659-2

TEL 0267-54-2111 FAX 0267-54-2444



検査依頼者名 ツルヤ 販売部

受付日 平成21年3月4日

検査名 エコシン除菌剤の殺菌効果試験

エコシン除菌剤の殺菌効果試験

依頼者：ツルヤ 販売部

受付年月日：平成 21 年 3 月 4 日

試験品：エコシン 除菌剤

試験方法および材料

1. 試験液

- 1) 消毒剤の原液および滅菌蒸留水で 10 倍希釈したものそれぞれ 20ml を試験液とした。
- 2) 対照として 0.85 %食塩水および 2.0 %食塩水(腸炎ビブリオ)それぞれ 20ml を用いた。

2. 殺菌効果試験に使用した菌種

試験菌種名	由来
黄色ブドウ球菌	<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC 2538p
腸管出血性大腸菌	Enterohemorrhagic <i>Escherichia coli</i> O157 (ベロ毒素 1 およびベロ毒素 2 産生) MML 2597
腸炎ビブリオ	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> WP-1

3. 使用培地および希釈液

1) 使用培地

SCDLP (Soybean Casein Digest Polysorbate 80) 寒天
腸炎ビブリオ用は 2%NaCl 加 SCDLP 寒天とした。

2) 希釈液

0.85 %食塩水および 2.0%食塩水(腸炎ビブリオ用)

4. 試験菌液の調整

- 1) 試験菌を SCDLP 寒天で $35 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、20時間培養した。
- 2) 培養菌を 0.85%食塩水(腸炎ビブリオは 2.0%食塩水)に McFarland 0.5 となるように浮遊し、その 100 倍希釈したものを試験液へ 200 μl 接種した。

5. 試験方法

- 1) 試験消毒剤の原液、10 倍希釈液および対照食塩水にそれぞれの試験菌液を一定量接種した。
- 2) 経過時間毎(接種直後、30 秒、60 秒、3 分および 5 分後)にそれぞれの試験液を良く攪拌した後にスパイラルプレーターにより SCDLP 寒天へ塗抹した。
- 3) SCDLP 寒天を $35 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、20時間培養した。
- 4) SCDLP 寒天に発育した集落数から、当社のスパイラルプレーティング法標準作業書に準拠して菌数を算定した。

試験結果

エコシン 除菌剤

接種菌種	試験液	経過時間後の菌数				
		接種直後	30秒	60秒	3分	5分
黄色ブドウ球菌	対照	2.7×10^4	2.6×10^4	2.6×10^4	2.5×10^4	2.6×10^4
	原液	"	<20	<20	<20	<20
	10倍液	"	<20	<20	<20	<20
腸管出血性大腸菌0157	対照	2.0×10^4	1.9×10^4	1.8×10^4	1.6×10^4	1.4×10^4
	原液	"	<20	<20	<20	<20
	10倍液	"	<20	<20	<20	<20
腸炎ビブリオ	対照	1.9×10^4	1.9×10^4	1.9×10^4	1.9×10^4	1.7×10^4
	原液	"	<20	<20	<20	<20
	10倍液	"	<20	<20	<20	<20

* 菌数 : CFU (Colony Forming Unit) / ml

検出限界 : <20 CFU/ml

検査担当者名 村松 紘一

検査責任者名 柳沢 英二